

(別添)

7 林整整第 482 号
令和 7 年 11 月 7 日

各森林・林業関係団体 御中

林野庁 林政部 経営課長
林野庁 森林整備部 森林利用課長
林野庁 森林整備部 整備課長
林野庁 森林整備部 治山課長
林野庁 森林整備部 研究指導課長

林業現場におけるクマ類による林業従事者等の人身被害防止の徹底について

平素より、森林の整備・保全業務に御尽力いただきまして感謝申し上げます。

今年度のツキノワグマ及びヒグマ（以下「クマ類」という。）による人身被害者数は 9 月末時点で 108 名と、被害が甚大であった一昨年と同じ水準であるほか、死者数は 11 月 5 日現在で 13 名と、すでに過去最多を更新しており、非常に深刻な状況となっています。そのような中で、10 月には新潟県の林業関係者 2 名が林内での測量作業中にツキノワグマに遭遇し、負傷する事故が発生するなど、森林域における人身被害の危険性が高まっている状況です。

本年 9 月にも、「森林でのクマ類による人身被害防止に対する指導等の徹底について（依頼）」（令和 7 年 9 月 26 日付け 7 林整研第 175 号）を都道府県に通知し、森林・林業関係者に対し、クマ類の出没等に関する注意喚起をお願いしたところですが、今般のクマ類による深刻な被害状況に鑑み、改めて一層の注意が必要です。

つきましては、貴団体の会員に対し、クマ類による被害防止の関連情報（以下の【参考】をご参照ください。）を改めて周知いただき、特に林内に立ち入る際は、予期せぬ遭遇による事故の危険性があることを常に認識し、緊急連絡体制を再確認し、新しい足跡やフン等の痕跡があるなど出没の危険性が高い地域を避けるとともに、鈴やラジオなど音の鳴る物やクマ撃退スプレーを携行するほか、蓋付きの容器による匂いの漏出防止や残飯の持ち帰りなどの食品管理を徹底するなど、遭遇リスクの回避及び遭遇した際の対策を徹底することについて、今一度強く注意喚起していただくようお願いいたします。また、林内での作業に当たっては、別添のチラシもご参考いただくようお願いいたします。

【参考】

○環境省作成マニュアル「クマ類の出没対応マニュアル改定版」

<http://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs5-4a/index.html>

○環境省 WEB サイト「クマに関する各種情報・取組」

<http://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort12/effort12.html>

担当：林野庁林政部経営課

労働安全衛生班 03-3502-1629（直通）

林野庁森林整備部森林利用課

山村振興企画班 03-3502-0048（直通）

緑化推進班 03-3502-8243（直通）

林野庁森林整備部整備課

企画班 03-6744-2303（直通）

林野庁森林整備部治山課

施設実行班 03-3502-8208（直通）

林野庁森林整備部研究指導課

保護企画班 03-3502-1603（直通）

(別添) クマに遭遇しないために

【林野庁】

皆さんの現場は、クマの生息域です。常に、近くにクマがいるかもしれないと注意しながら作業しましょう。

林業の現場では、特に**冬から春にかけて「巣穴付近での被害」が発生**しています。

**クマ類が生息している山林で作業する際は、
以下の事項について注意願います。**

- ① 単独行動を避け、鈴やラジオなど音の出るものを携帯し、
人の存在を知らせてください。
クマ撃退スプレーの携行も推奨されます。
- ② 混合油などの燃料は、クマの誘引物とされています。
給油場所、保管場所では周囲に注意を払ってください。
- ③ 弁当等の食品管理を徹底してください。
※においの漏出を防ぐため、丈夫なプラスチックや金属製のフード
ロッカーの利用も検討してください。
- ④ 岩陰や乗り越える尾根の先などの見通しの悪い場所では、
クマと突発的に遭遇する可能性があるため、手前で立ち止
まって大きな声を出すなどにより安全を確認してください。
- ⑤ 冬から春先にかけては、倒木、岩穴や木の根上がり等の
空洞といった巣穴（冬眠穴）として利用しそうな場所
には、不用意に近づかないでください。

巣穴の例（撮影：佐藤嘉宏）



倒木の根元



樹洞



樹洞

「遭遇した場合」については裏面へ

詳しくは、環境省作成マニュアル
「クマ類の出没対応マニュアルー改訂版ー」を参照願います。

※クマ撃退スプレーは、有効成分・濃度、噴射距離・時間など性能差があるので確認して選んでください。
なお、製品の性能は、EPA（米国環境保護庁）に登録されたものが参考となります。



クマ類に遭遇した際にとるべき行動

(1) 遠くにクマがいることに気がついた場合

落ち着いて静かにその場から立ち去ります。

(2) 近くにクマがいることに気がついた場合

クマを見ながらゆっくり後退する、静かに語りかけながら後退する、など落ち着いて距離をとるようにします。

慌てて走って逃げてはいけません。

(3) 至近距離で突発的に遭遇した場合

攻撃を回避する完全な対処方法はありません。

クマは、顔面・頭部を攻撃することが多いため、両腕で顔面や頭部を覆い、直ちにうつ伏せになるなどして重大な障害や致命的ダメージを最小限にとどめることが重要です。

(4) 親子グマとの遭遇

子連れのクマと遭遇した場合、速やかにその場から離れることが必要です。

(5) クマ撃退スプレーによる撃退

クマの目や鼻・のどの粘膜にスプレーが当たるよう、顔に向かって噴射することが重要です。

射程距離は 5 m 程度と短い製品が多いため、十分クマを引き付けてから噴射する必要があります。

クマと遭遇した際の正しい対処法については、環境省作成マニュアル「クマ類の出没対応マニュアルー改訂版ー」等で確認ください。